

市民のページ



「八重の桜」の配役が決まりました

5月30日(水)、大河ドラマ「八重の桜」に出演する俳優の第1陣が発表されました。八重役の綾瀬はるかさん以外にも、八重の兄「山本覚馬」に西島秀俊さん、最初の夫「川崎尚之助」に長谷川博己さん、「西郷頼母」に西田敏行さんなど豪華なキャストです。今まで、このコーナーで紹介した八重ゆかりの人物も、多数ドラマに登場します。クランクインは秋口から。市では、現在、出演者に会津まつりへ参加してもらえるよう働きかけをしています。(写真提供 NHK)

▼監修：会津歴史考房 主宰・野口 信一さん

その後、猪苗代組の藩士の後、猪苗代組の藩士は越後高田に移されます。また、許された老人や女性、子どもたちも、武家屋敷がごとく焼かれたため住む場所がなく、塩川周辺に割り当てられた農家で、間借りの生活をしていくこととなります。この頃、八重の一家がどこに住んでいたのかは分かっていません。ただ、当時は新政府からの救助米がないと生きていけなかったのです、みんなと離れた場所に行くことはなかったと思われます。

お届けします 「八重の桜」通信



2013年の大河ドラマで、会津藩士の娘・新島八重を主人公にした「八重の桜」が放送されることになりました。ここでは、新島八重に関する歴史やドラマに関連することなどを紹介していきます。

その6 降伏、そして開城

1868年9月22日、会津藩はついに降伏します。その日の深夜、八重は三之丸の雑物蔵の白壁に、「明日の夜は、いずこの誰か眺むらん、なれしお城に残す月影」と、鶴ヶ城を明け渡す無念の心情を詠んだ歌を刻んだといわれています。三之丸は、現在の県立博物館や市営プール周辺の区域に位置し、雑物蔵はプールの東側にありました。開城の翌日の朝には、西軍から白米のにぎり飯が与えられました。し

かし、それまで玄米しか口にしていなかったため、朝日に輝くそのあまりの白さに、誰もが「毒が入っているのでは」と、一瞬、食べざるのをためらったそうです。開城時、城内には藩士子ども、傷病者など、5200人以上がいました。また、城外では、まだ1700人ほどの藩士が戦っていました。これらのうち、女性と60歳以上の年寄り、15歳未満の子どもはお構いなしとされましたが、城内に

いた藩士は猪苗代に、城外で戦っていた藩士は塩川に、いったん謹慎させられました。ここで八重は、戦死した弟の名「山本三郎」を名乗り、藩士として猪苗代へ向かっています。ところが、途中で八重に気付いた西軍兵士に「女がいる。女が行くと付きまとわれ、結局、猪苗代到着後に若松城下に戻されています。

その後、猪苗代組の藩士の後、猪苗代組の藩士は越後高田に移されます。また、許された老人